教養部自治会を再建しよう！

日「共」・「民」青の私有物＝デッチ上げ「自(常)」粉砕！

編入生諸君へ

残念ながら現在、教養部には学生自治会が存在しない。諸君と共に教養部自治会を再建するために一言を送りたい。

一 学生の自治とは

学生の自治とは、一つには、あくまでもわれわれ学生、自ら学生の仕事として、どうしたらいいかを考え、自らのことは自らで決め、自ら学生の仕事として、やっていくものである（例えば、当局の我々に対する管理強化・治安言論弾圧に対する闘いは、そういう意味を持っている）。しかしながら、同時にそれにとどまるものではなく、格差別下層、ヨロレタリアン民と連帯しつつ、全ての社会に連帯してゆくという質をもつものでなければならない。なぜならば、大学生は資本の生産技術を開発し、新たな差別分断体制を作り出していく場としてある現在、こうしたヨロレタリアン民との連帯こそ、真の意味の自治は、そうした所に主体的に学生自治会を形成していく学生の内的の課題にしかならないからだ。

二 教養部自治会の崩壊

数年、京大の多くの学生は現在のわれわれと同じ考えをもち、学費値上げ阻止闘争を闘った。ここに於て、日本「共産党」＋「民」青同盟は私物化していた全学自治会（教養部自治会）の執行部は自治会費を学生に対してわかりに売るというハレンチな敵対を行なった。だけを爆発させた教養部生は力ずくで日代議員大会（教養部自治会の最高決議機関）を広自執行部をとり、臨時執行部を選出した（また二次の臨時学生大会を開いて返さしめる）。だが残念ながらその後広自は復立することなく、現在に至っている。

我々は、こうした「学生自治」を一刻も早く取り戻し、自治会の再建をかちとらねばならない。

三 デッチ上げ「広自(常)」粉砕！

現在「広自(常)」なるものは、数年に日「共」・「民」青が自治会員会をデッチ上げて以来居座っている二重組織である。以来彼らは「自治」する自治会員会は成立していることなく、彼らは二人二役自治会を使って犯罪的自治破壊活動を行なっている。

第一に、広「暴力」キャンペーン、告訴・告発をもって学生を恐怖に陥れ沈黙である。それは単にデッチ上げであるのみならず、暴力にはきわめて無関心であるものと、人民的抵抗を「暴力」とすりかえることを隠し、後者をも否定する誤りである（我々は後者を持って前者とする。学生内部の問題に権力を介入させる自治破壊は許してはならない。

第二に、「学費闘争」のデッチ上げ物取り＝管理わの学費への売り渡しである。彼らの数億円は、当局の差金物取り管理化＝学生の自主的自治を完全に放棄した上でのものであり、徹底した学生の、一切の学生の自由にならない学費が教授の下で学生をこき使する現在の大学管理体制の側からは、絶対に他ならない。これも、こうした法外な値上げ・ゴリゴリとボスなぶりをしてやっている自治会員会を回収することができる。

こうした「自治」のもとで自学徹底をする部分を断固粉砕して、真の学生自治を再建しようではないか。新入生諸君、ぜひ参加を。

教養部学生自治会